

2016年

携帯サイトへGo!→  
携帯で教室便りが見られます



公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL 186-61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者: 新妻ゆき子 携帯 090-2260-0671

Eメール: yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス: yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索



ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

## 教室だより 8月号

### 夏休み

いよいよ、子どもたちが待ちに待った夏休みが始まりました。

お子さまにはぜひ何らかの目標を持って、夏休みを過ごしてほしいと願っています。

目標は高いものである必要はありません。「ぜったい達成するぞ」という気持ちを持ち続けて、やりきることが大切です。やりきったという事実が達成感・自信につながります。

夏休みは、自分に自信を持つためのチャレンジ期間として最適だと思います。

そして、何かを身につけるには、少しずつでも毎日取組み続けることが大切です。

公文の学習も同様です。「今日は20枚やったから明日はお休み」ではなく、毎日少しずつでも続けることで学習習慣が定着し、学力が向上します。

毎日続けるには、公文を学習する時間（公文タイム）を決めておくのがおすすめです。

大人になって社会に出た時も、「計画的に実行できる」「時間をきちんと守る」「努力を積み重ねる」という習慣は必ず役に立ちます。これが「いつものこと」「当たり前のこと」になってきたら、子どもたちは私たちが想像している以上の成長を見せてくれることでしょう。

## 公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“いちいち教わらなくてもできる子に”

### 「自学自習」が目指すもの

公文式の教材は、一人ひとりが自分にちょうどのところを、自分で読んで、自分で考えて、自分で書いて進んでいくようになっています。私たちは、この学習方法を「自学自習」と呼んでいます。この自学自習の方式だからこそ、子どもたちはそれぞれ個人別に、自分のペースで進んでいくことができるのです。自分の目と頭と手を使って、問題を解き進んでいく中で「読み・書き・計算」の知的技術を身につけ、身につけたことを土台にしながら、次の新しい学習内容を自分の力で学んでいくのです。このようにして、自ら学ぶという習慣がついてくると、それまでに培った力で、学校ではまだ習っていない内容でも挑戦してみようという意欲もわいてきます。

いちいち教わらなくても、自力で進んでいけるのだと知ったとき、子どもの瞳は輝きます。公文式が自学自習によって育てたいのは、そのような自信と挑戦しようとする態度、すなわち自らの生きる道を、自ら切り拓いていこうとする、自立の精神なのです。

## 2016年 8月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11 山の日	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

本市場教室日□

横割教室日△

### 子どもが自ら学習する「適切なズレ」って どういう意味？

子どもの成長を促すためには、適切なサポートが必要です。通常、身体的な成長は、バランスのとれた食事や睡眠、運動などで促されていますが、知識や技能を習得するためには、学習や訓練が必要です。

子どもはある環境下に置かれると、褒めや罰則がなくても自ら学習します。それは、それまで蓄えてきた知識や能力と「適切なズレ」をもった環境です。

公文では、子ども一人ひとりの学力に応じた「ちょうど」のところを学習します。「ちょうど」とは、「適切なズレ」を生じさせた環境だともいえます。少し難しいけれどやりがいを感じるころを、くり返し学習し、速く正確にできるようになったら次の教材へ進むのです。

このとき、周りの大人の言葉がけが非常に大切です。「よくがんばっているね」「OOちゃんならきっとできるよ」などの励ましによって、子どもは意欲を持続させます。そして自力で乗り越え、達成感を味わうことが、さらに先へ進むという意欲につながります。このくり返しによって、それまでできなかったことが徐々にできるようになり、成長していくことができるのです。

<白百合女子大学/田島信元教授 監修>

## ～お子さんの成績アップのために～

### 人のせいにしない

子どもが勉強できないことを人や環境のせいにしてしまうことがあります。しかし、それでは本質的には、何も解決しません。そういう親や大人の態度は、子どもにも影響を与え、言い訳ばかりの子どもが育ちます。

少し前の時代なら、言い訳をしようものなら、父親が烈火の如く怒り、鉄拳制裁があった家庭も多かったのです。

それはまた、子どもの心をゆがめてしまう、悪しき慣習でした。しかし昨今では、逆の振り戻しが起こっています。

「だって先生の教え方が悪いんだもん」

そんな子ども責任転嫁を聞くやいなや、すぐさま学校や教師に抗議したり、訴えたりするような風潮です。

子どもが先生の悪口を言えば、それをたしなめ諭さなければならぬところを、親子して一緒になって、先生の悪口を言います。確かにいろいろな先生がいますし、教え方が悪いという点においては、その通りかも知れません。

しかし、そういう状況においても、自分できちんと勉強している子どもはいるのです。先生のせいにしたところで、勉強はできるようになりませんし、ますます先生との信頼関係は失われてしまいます。確かに影響力は大きいですが、先生は絶対ではありません。学校が悪い、環境が悪い、友だちが悪い、先生が悪い…というように、できない原因を探そうとすれば、いくらでもあります。しかし、そんな時、ふと思いとどまってください。

「本当はどうなりたいのですか？ 子どもをどう育てたいのですか。子どもにどうなって欲しいのですか？」

子どもができないことの言い訳をしたならば、それをやめさせなければなりません。子どもが安易に人のせいにしたならば、子どもの努力不足を叱らなければなりません。

母親が教師の批判を始めたら、父親はたしなめなければなりません。家庭で、学校や先生の批判を子どもに聞かせてはいけません。大人が人のせいにしたならば、必ずや子どもは真似をします。自分が努力しないことへの言い訳にします。人間は、時に、どうしても怠け心が芽生えるからです。

「先生が宿題を出さないから、うちの子どもが勉強しないんです」

「せっかく宿題をやったのだから、ちゃんとコメントを入れてください。子どものやる気がなくなります」

「持ち物一覧表を書いて印刷して配ってくれないから、うちの子は忘れ物をするんです」

「教科書が学校でなくなったんだから、新しいものを準備してください」

勉強は自分です。まわりがどんな状況であれ、人がどうであれ、自分自身が研鑽を積んでゆくものなのです。

それを忘れてはいけませんし、そのように子どもに教えてゆかねばなりません。

また子どもにそのようなことを教育するのは、親の義務だと思います。

### 子どもを傷つける親の言葉遣い

しかるごとがいかにより子どもを傷つけているか解っていらっしゃいますか？

しかるごとと同じように親の言葉遣いも大きな問題です。感情的にしからなくても、言葉遣い一つで子どもを傷つけている例がとて多いのです。例えば、こんなケースでは、あなたは子どもにどんな言葉をかけるのでしょうか。子どもを目医者に連れて行ったら、とても混んでいて、通路の隅で待っていたが、ちょっと目を離したすきに子どもが通路に飛び出し、危うく他の患者とぶつかりそうになりました。こんなとき、「そこにいるとジャマでしょう」といいながら子どもを引き寄せるお母さんが多いのではないのでしょうか。しかし、何気なく使った「ジャマ」という言葉には相手为非難する要素があります。例えば、道路をふさいで立っている大人に向かって「そこにいるとジャマだ」とは言わないでしょう。おそらく誰でも「ちょっとどいて頂けますか」とか「すみません。通らしてください」と言うのではないのでしょうか。それなのに、なぜ子どもだと平気で「そこにいるとジャマ」と言えるのでしょうか。それは親子関係に親が甘えているからです。子どもだって、そのような言い方が気持ちいいわけがありません。それならば、単に「こっちにいなさい」と単純に指示する方がはるかにいいと思います。もっといいのは、「こっちにいるといいよ」と前向きな言葉遣いをすることです。ここには非難の要素がないので、言われた方は素直に聞くことができるのです。

**お休みのときは、電話でも携帯メールでも結構ですので連絡をお願いします8月分の会費引き落としは7月28日(木)です。よろしくお願いたします。**

**(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。**

**お迎え電話を教室からする子には必ず電話代10円を持たせてください。**